

号外

# くうなん

十 言葉のプレゼント 十

屏風は折れるから

立つんだよ

突っ張っていると

じき倒れるよ

天台宗 ハイイ開教総長

荒了寛 師

如是 我言

~~~~~

四月に六十三歳の男性門徒が亡くなりました。残されたのは、奥さんと娘二人。長女は東京、次女はニューヨークにそれぞれ在住。母一人が田舎に残された。初七日のおりに、娘二人が家を後にしたなら母親はどんなに淋しい事か。せめて中陰に参るつもりで毎週手書でも書くと良いと話し帰院。翌週二七日に参り、娘達から手紙が来たかと母親に尋ねると、「はい、今朝メールが届きました」と指さす方をみれば、茶の間のテーブルにパソコンが置いてあった。聞けば以前から離れ離れに暮らす家族のコミュニケーションとして、メールのやり取りが行われていたという。父親が入院している時も、メールの交換で娘たちが相談相手になってくれたと言う。

世の中の移り変わりの速さにただただ驚くばかりです。ふと我が家を振り返ってみれば妻と息子たち三人がパソコンでゲームに興じていました。それも和気あいあいと。

その輪のなかに入ることもできず、しぶい顔をしながら、ただ新聞を見ている私でありました。

南組では、今年度ホームページ開設に向けて動き出しました。教団内からみれば、いち早くと言えるが、世の中の流れから見れば、遅まきながらと言えるのかも知れない。

## 定例総会開催

(組△△△、甘基推推禾女)

平成十二年度

新たな活動方針決定する

去る四月十五日および三月二十九日に空知南組々々会、同基幹運動推進委員会の定例総会が相次いで開かれ、平成十一年度における基幹運動の結果や事業報告と決算案、また、平成十二年度の運動方針や各部会の運動計画、組会の事業計画、予算案などを原案通り決定するとともに、新たにインターネットを活用して、門信徒外一般にも、南組における真宗活動の開示や一般からの悩みや相談も受ける目的で、「空知南組基推委ホームページ」の開設に向け、委員会の設置も決めました。また財政健全化委員会を前執行部から受け継いで取り組むこととし、委員も委嘱さらに有珠山の噴火に伴う義援金を各寺、一千万円の負担で、特別積立金から支出することなど、お手元に届いている資料以外に、二十一世紀という新たな時代に踏み込む南組としての重要な決定や、総会ではこれらをめぐって活発な議論もありましたので、広報部で

は、『くうなん』号外により内容を紹介することとしました。

### ▽新たなメディア伝道へ踏み出す

まず、ホームページ開設のための委員会ですが、空知南組基幹運動推進委員会伝道部のなかに設置し、本年中にインターネット上のホームページ開設に向け作業することになりました。通信やコミュニケーションの手段として世界的な規模でうねり始めているインターネットを伝道に活用しようというもので、道内各組会の先鞭を切る試みであり、全国的にみても異例の挑戦と言えるのではないのでしょうか。この計画は基推委の若手メンバーの熱意、意欲によって検討を重ね、今総会での提案となりました。総会で承認を受けた委員会メンバーは、総会提出の資料通りですが、委員長には本覚寺の高橋宗瑛氏が任命されています。

委員会の方針、重点目標なども議案記載の通りですが高橋委員長の説明もあつたなかで注目すべき点は、このホームページを組単位で一般に開



くことです。組内部、寺院間や門信徒内のコミュニケーションではないということです。具体的にホームページには、南組全寺の所在から法座など活動内容を紹介、また、それらの活動への参加呼びかけといったことのほかに、若い人達へのメッセージも発信し、電子メールによる意見や問い掛けの返信も受け、一般の人達の悩みごとなどに念仏者としての相談の窓口にしていきたいとのこと。大変な挑戦になるわけですが、心配なのは如何に今日的な媒体であるといっても、内容は私どもの宗派のみ教えと、一般社会との関わりが変わりありません。そのやりとりには、紆余曲折やこれまでの伝道と同質の悩みや苦労は、当然、付き纏うことになると思います。問い掛けや質問が殺到したり、あるいはなかにはいたずらやいやがらせもあるかも知れませんが、応対には、宗派全体の立場で、トラブルが起きないことも配慮しながらの慎重な回答も必要になるでしょう。半面で、一般からの反応が期待ほどにないというようなこともあるかもしれません。中々、容易な取り組みではありませんし、ただ、やってみるだけでは意味はありません。しかし、大きな第一歩と感じるのは、先の門戸開放という事だけでは無いと思います。もう一つの観点は基推委、組会のいずれの総会においても、こんな意見があつたことです。ホームページに

に関する直接の意見だけではありませんでしたが、実際には関わりがあると推量できますので、紹介します。

### ▽今日の世相に対応できる教団へ

アトランダムに拾って、要約しますと門徒代表の方から、こんな意見がありました。今日の世相、人心の乱れに、真宗教団として積極的に関わり、答えていくことにもっと勤める必要があるのではないか。現状でよいのか、ということだったと思います。あとは参加委員、メンバーの意見ですが、組合総会ではかなりの意見、議論があったわけですが、基推委の総会で、もっと意見を出し合って、議論を深めるべきではないか、との意見もありました。この意見の背景には、先の今日の世相にどう対応すべきか、その課題に対する議論不足のもどかしさみたいなものも感じられたわけです。対して、こんな意見もありました。議論は各部会や部会常任委員会があり、その場で議論し、まとめたものを総会に上げて来るべきだ、そういう筋論の確認もありました。それからこんな意見もありました。連年の研修会などに出て来る寺院が少なくなってきていて、決まった寺院に限ら

れるようになっていく。これは基推委、組合の両総会を出され、課題として深刻に受け止めるべき意見となっていました。次いでそのような状態を打破し「活性化」が必要であるとの意見もありましたが、その活性化の手法は、あくまでも参加寺院を増やすには、どのような手段を講じたらよいか、という事の意見でした。また、本年度の事業計画は、ほぼすべてが原案通り、了承され、その内容は、組会事業、基推委および十二各部会とも前年踏襲型であったわけですが、このままでは、今年も前年度と同じようなことに取り組むことになり、決まったことをごなすだけの運動になってしまおう、それでよいのかどうか、ということの意見だったと思います。

### ▽世代間に漂う認識のずれ

それともう一つ気になったのは、意見というより、感じですが、年代間格差と参加者間の認識のずれであります。特にホームページについては、全く関心を示さない年代層もあったかに受け止められました。人心の乱れに真宗教団として、僧侶、門信徒として果たすべき役割、任務はないのかという問いに、本紙として

は、ホームページ開設に向けて取り組んできた若手メンバーは、そうした意欲、姿勢で取り組んできたやに受け止められませんでした。門徒代表の方の懸念には、その辺のコミュニケーション不足というか、これからの課題になるでしょうが、周知徹底が必要なことだろうと思います。また前年踏襲型の基幹運動に、その姿勢がないかという点、そんなことではないと思います。長い時間をかけて組み立ててきた枠組みですから、その機能や役割にも重要なものがあります。ただ、人の集まりにしても、マンネリ状態で、硬直化してきていることも事実でしょう。内部にも慢性化のような壁、課題ありなのだと思います。いずれにしても、ホームページのような新しい試みへの挑戦の意欲、姿勢がくっきり出てきたことが重要だと思われるのです。一気に救世主のようなことを期待するわけにもいきません。地方の寺院は門徒数の減少など、深刻な状況も顕在化してきています。このような時に、頑張れる若手がリーダーシップをとっていく、このことにも重要な意義が生まれると思います。いずれにしてもホーム



ページの取り組みは、こうした状況の打破の切り口となり得るかどうかに注目したい、というより、これらの課題は全カ寺の課題なわけですから、また、「寺院は聞法の道場」、これをホームページに持ち込みたいという、委員会の表明に伝道部の全面バックアップの確認もあり、ただ見守るだけでなく、全力寺の協力や支援も不可欠であろうかとおもわれます

### ▽財政健全化委員会発足

次に財政健全化委員会ですが、組総会において、立ち上げた前執行部より受け継いで、また、新執行部の新たな検討や特色も出しながら、作業を進めていくことが確認されています。委員会のメンバーは次の通り任命されました。

樋浦芳彦・永岡龍乗・靈山信成

辰田真正・萩山教英・高橋宗瑛

一方、有珠山の見舞金については、教務所を窓口には要請があったことも受けて三十二カ寺分、三十二万円を、特別積立金から支出することも確認されました。ただ、どういう支出の仕方がよいかで、若干の議論がありました。ただし、この辺は議論というより、見舞金などの支出規定の整備に遅れの観があり、その整備

も確認されています。併せて、毎年度課題になっている宗派賦課金の納入時期について、十二月の年末までの納入についても、繰り返し呼び掛けがありました。宗派賦課金については、年末完納でなければ、補助金の支出が得られないといった特殊事情があつての、改めての呼び掛けです。ここでは、年度末でいいとの勘違いや各寺の事情もあるとの配慮から、全力寺の完納がなかった場合、特別積み立て金から予め支払いし、年度末までの納入で、特別積立金へ補填、逆送する手法ではどうか、主に特別積立金の使い方、それを内規として規定しておくか、申し合わせしておくかの議論や、否、呼び掛けを徹底するなどの議論があつてその整備には、課題を残したと言えるでしょう。



## 編集後記

▼号外をお届けいたします。総会欠席の方は、お手元の資料と共にお読みいただければと思います。出席された方は、総会の白熱した論議を思い起こし、今年度の方針の再確認をして頂ければ幸いです  
▼森首相の「天皇を中心とした神の国」発言には久しぶりに、本当に腹が立ちました。翌々日の記者団へのコメントには「宗教が大事なのではなく、いのちが大事なんだ」という発言に危機感を感じます。いのちにかえても守らなければならぬ大切なものがあるのです。怒りが爆発しそうです▼同じ爆発でも有珠山は心配です。あてのない避難生活にさぞやお疲れのことと思います。紙面を借りて心からお見舞い申し上げます。

空知南組々報

「くうなん」号外

2000年5月22日発行

○編集 空知南組基幹運動 広報部

○発行 空知南組々長事務所